

1、自己紹介（所属と名前） ※当該試合の主審が副審の資格確認を行う

2、4審との打合せ（4審は必ず1名は審判の有資格者とする） ※試合中何らかの事情において審判交代の場合

① 交代について

- ・メンバー表との照合、用具の確認、装飾品の有無
- ・アウトオブプレイになったら速やかにレフェリーを呼び、アウトする選手番号を口頭で伝える。
インする選手の番号をレフェリーに伝える。
- ・アウトする選手が出て、レフェリーの合図があるまで入らないように伝える。
- ・出血を含む負傷・用具の不備で出された選手の再入場できるか否かの判断を任せる。
インプレー中でも、レフェリーの合図があれば入ること伝え、試合への影響が無い時に入れる。

② ベンチコントロール

- ・アップをせずにベンチ横で試合を見て指示している選手がいれば注意する。
- ・判定に対する異議などがあれば注意して、改善がなければ、レフェリーを呼んで退席があり得る事を伝える。それでも改善されなければレフェリーを呼んで退席してもらう。
- ・本部席付近の明らかにわかった、ワンタッチなどがあれば小さく合図してもらう。
競技規則の適用ミスがあれば、インプレーになる前に止めて、正しく再開する。

③ アディショナルタイム

- ・どのように伝える決めおき、試合終了寸前前に表示、無ければ事前にベンチに伝える。

3、副審との打合せ

① 交代について

- ・交代が準備出来ていれば、旗を頭上に上げてシグナルする。

② オフサイドについて

- ・ラインを常にキープする。
- ・オフサイドの反則が確定するまで、旗を上げずについていく。

③ ボールアウトについて

- ・明らかなものについては直ぐに指し示す。
- ・わかりにくい場合には主審と目を合わせて、指し示したい方の手で旗もって待つ。
主審も腰の高さ辺りで、指し示したい方向を示す。
- ・ワンタッチが見えていたが主審が反対を指している時はワンタッチのシグナル
（脚を二度ほど軽く叩くなど）をして正しい方向を指す。
- ・ゴールキック、コーナーキックはゴールラインまで行ってシグナルする。遅れることは仕方がない。

④ ファウルサポート

- ・主審の様子を見て、見ていないと判断したら旗で知らせる。
- ・PKの判断は主審の死角で起きたものしかサポートはしない。

⑤ ペナルティキックについて

- ・ペナルティキックになったときは、ペナルティエリアとゴールラインの交点まで来て、ゴールインとキーパーの飛び出しを見る。一度ゴールインして出た時はフラッグアップ後、主審の笛がなかったらセンターサークルを指す。キーパーが飛び出して、ゴールにならなかった時はフラッグアップして、飛び出したというシグナルをする。
- ・ゴールインが明らかな時は何もしない。
一度ゴールインして出てきた時は、フラッグアップしてセンターサークルを指す。